滞在型市民農園の利用・整備に資するマネジメント人材に関する研究

浦野 翼(Tubasa URANO)

キーワード：滞在型市民農園、レクリエーション活動、菜園、ラウベ、田園地域

１．はじめに

今日、地球環境保全を目途とした環境都市・地域、引いては環境国土づくりが重要な課題となっている。また「ものの時代」から「こころの時代」を重視した、換言すれば「経済大国」から「生活大国」への転換、精神的にも豊かな社会の構築が求められている。

このような新たな社会形成への転換期にあって、国民の生活様態、すなわち一次活動（睡眠・食事等）、二次活動（仕事・学業等）、三次活動（余暇活動、受療等）のうち、二次活動の三次活動化、すなわち家族や友人と家庭、公園緑地や野外でゆったりとした時間を共有する、あるいは気のあった仲間との時間を楽しむ、社会への奉仕的活動に参加するなどのゆとりの時間の充実が期待されている。

一方、レクリエーション活動とは、精神的、肉体的な疲労回復や、日常生活に潤いを求めて行う余暇活動であるが、①人間・人格形成、②生活の充実、③社会活動の円滑化、④文化の発展など様々な効用が認められる。またその特性は活動時間・時期、活動場所、活動単位、目的・内容などによって類型化されるが、高齢世代を中心とした社会奉仕や学習等の自己表現型の活動、さらに個人の活動を社会的にまで広げ、自分の余暇から自分たちの余暇へと拡大する活動様態が注目されている。

以上のような背景にあって、農を活かしたレクリエーション空間づくりに対するニーズは高まっており、農作物の栽培、農作業の実践など農を基盤としたレクリエーション空間の整備が進行しつつある。その主たる目的・効用としては、①新鮮で安全な食料の安定的な確保、②農作業や土や自然の動植物等との触れ合いを通じた心身の健康の回復、維持・増進、③野草や花などを自ら生産するという充足感、④農作物の栽培、農作業を通じた子供の情操教育や参加者を対象とした環境教育・学習、⑤共通の趣味を持つ仲間や農村住民との交流による人間関係の構築・コミュニティ意識の醸成、⑥障害者・高齢者の社会参加の場の創出、老後の生きがいや一つの生活スタイルの構築、⑦擬似ふるさと体験など広範囲にわたっている。

その結果として都市、農村を問わず農地の保全が担保され、農地所有者にとっては、農業経営に係わる多角化の一方策、都市住民との交流による人間関係の構築・コミュニティ意識の醸成、高齢化や後継者不足による農地の遊休化防止対策等として期待されるところも大きい。また、都市と農村の共生・対流・交流の場においては地域の活性化にも繋がり、所得や雇用機会の確保、地域のイメージアップなどの効果も期待できる。

２．目的

以上に述べたようにこのような農を活かしたレクリエーション空間に対する期待は大きいものと言えよう。その形態についても様々なタイプがあるが、本論では、主に田園地域に位置する「滞在型市民農園」に焦点をあて、その整備実態について把握するとともに、利用者の満足度を高め、当該施設が活性化するための方